

震災がれき大谷石の再利用による 休憩所兼喫煙所

設計:宇都宮大学安森亮雄研究室

〒321-8585

栃木県宇都宮市陽東7-1-2 宇都宮大学工学部8号館2階

tel/fax 028-689-6185

e-mail yasumori@cc.utsunomiya-u.ac.jp

施工:宇都宮大学安森亮雄研究室, (株)興建

Smoking Pavilion by Recycled Oya Stone Caused by Earthquake Disaster

Architect: Yasumori Lab, Utsunomiya University

〒321-8585

Yoto 7-1-2, Utsunomiya, Tochigi 321-8585, Japan

tel/fax 028-689-6185

e-mail yasumori@cc.utsunomiya-u.ac.jp

Construction: Yasumori Lab, Kohken



図1 ファサード

東日本大震災では栃木県内で約18万トンのがれきが発生し、そのうちの約5割が石蔵や石堀の崩壊による大谷石がれきであった。これらの一部は一般に無償譲渡されたが、多くは処理業者に引き取られ粉砕処理されつつある。こうした調査をもとに、大谷石がれき約150本を引き取り、宇都宮大学陽東キャンパス構内に休憩所兼喫煙所を設計施工した。デザインは、街中にある大谷石蔵の景観を引き継ぎつつ、人の居場所となる大きなベンチとして機能する「小さな蔵・大きな家具」をテーマとした。大谷石によるストリート・ファニチャーが、今後の街中の広場や待合所などの景観形成のプロトタイプとなることを意図した。

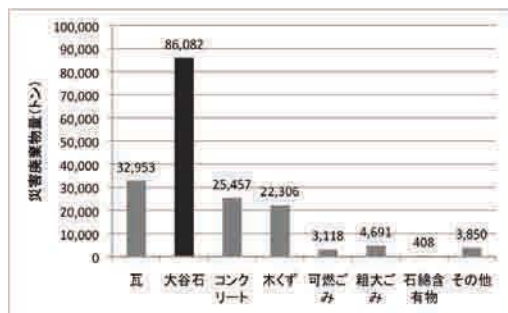


図2 栃木県内の災害廃棄物の内訳 (2012年6月10日現在)

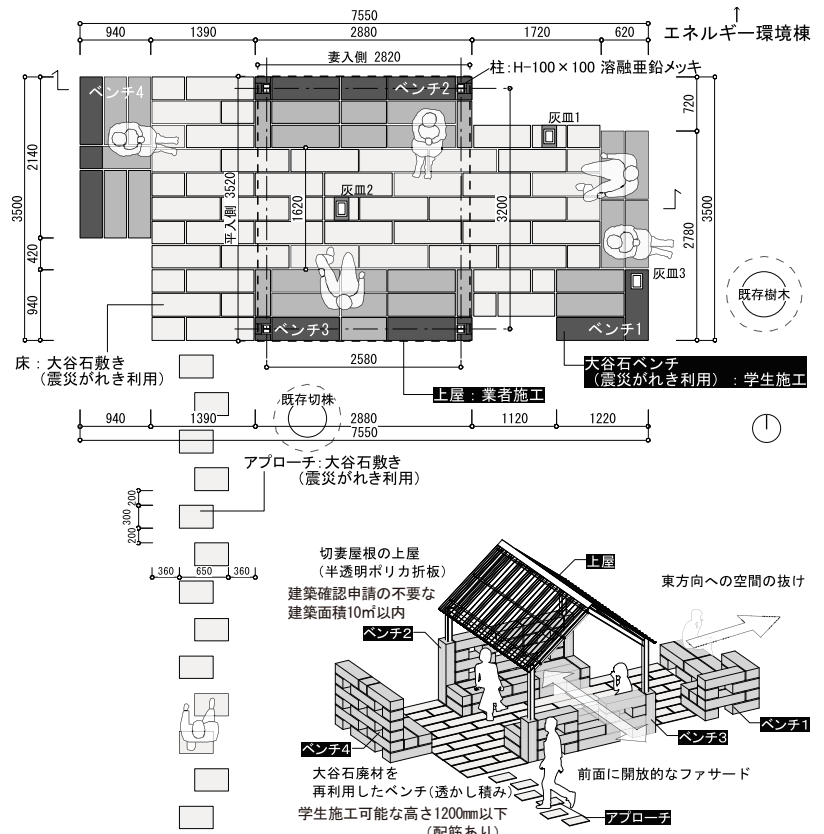


図3 平面図 (縮尺=1/100)

図4 「小さな蔵・大きな家具」としてのストリート・ファニチャー

所在地：栃木県宇都宮市陽東 7-1-2 宇都宮大学陽東キャンパス内

主な用途：喫煙所

設計：安森亮雄、佐原謙介（設計時、宇都宮大学大学院生）

大谷石施工：佐原謙介（プロジェクトリーダー）、福田聖也、佐藤秀斗、羽部竜斗、松浦達也、松本遼平（以上、宇都宮大学大学院生）

大谷石技術指導：オオツカ石材工業

上屋及びRC基礎施工：（株）興建

重機（ユニック）操作：野俣善則、本庄宏行、佐藤豊（以上、宇都宮大学技術職員）

震災がれき大谷石提供：栃木県芳賀町、市貝町

建築面積：上屋 9.9m² 大谷石舗装及びベンチ 23.4 m²

設計期間：2012年6月～2013年2月

施工期間：2013年2月～3月

Location : Utsunomiya University, Yoto7-1-2,Utsunomiya,Tochigi

Main Use : Smoking area

Architect : YASUMORI Akio, SAHARA Kensuke

Construction : SAHARA Kensuke(Project leader), FUKUDA Masaya, SATOH Hideto, HABU Ryuto, MATSUURA Tatsuya, MATSUMOTO Ryohei

Instruction : Otsuka sekizai kohgyo

Construction of Hut and Foundation : Koken

Operation of UNIC : NOMATA Yoshinori, HONJO Hiroyuki, SATOH Yutaka (Technical Staff, Utsunomiya University)

Provide Oya Stone : Haga town, Ichikai town, Tochigi

Building Floor Area : Hut 9.9 m² Pavement by Oya Stone 23.4 m²

Design Period : June 2012 - February 2013

Construction Period : February - March 2013



図5 東日本大震災による大谷石がれき



図6 大谷石がれきの引取り



図7 学生によるセルフビルド



図8 大谷石をくりぬいた灰皿



図9 上屋と一体化する大谷石ベンチ



図10 大学キャンパスに居場所を形成するパヴィリオン

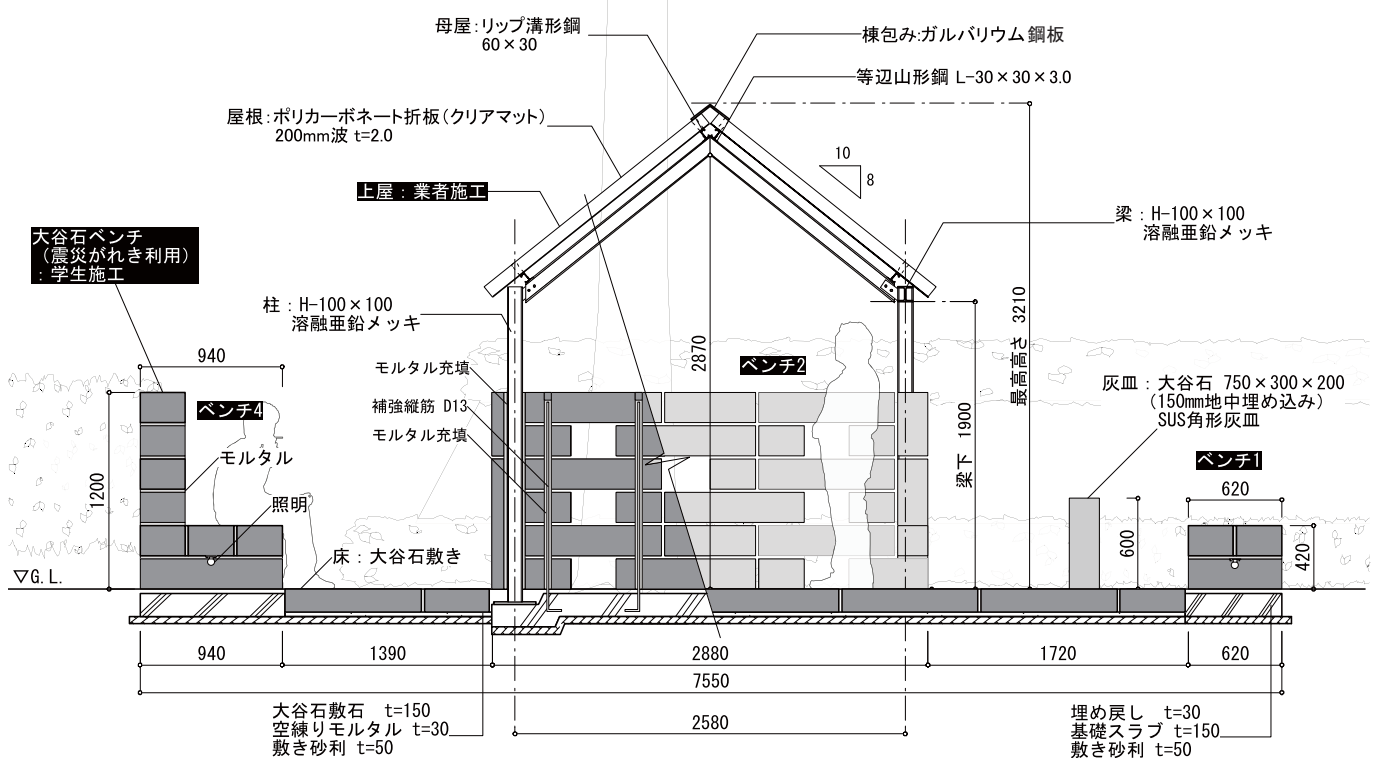


図11 鉅計図（縮尺=1/50）